

# Connect-CMS

## V1 → V2 グレードアップ手順

Xserver レンタルサーバー対応版

2026年3月

# 1. 概要

Connect-CMS V1 から V2 へのグレードアップは、同一の DB とファイルを保持したまま、git のブランチを切り替えて Laravel フレームワークをバージョンアップする作業です。

新しいシステムへのデータ移行ではなく、同一システムのバージョンアップであるため、既存コンテンツはそのまま引き継がれます。

## 1.1 V1 と V2 の主な違い

項目	V1 (移行前)	V2 (移行後)
PHP	7.4 ~ 8.1	8.1 ~ 8.3
Laravel	8.x	10.x
DB 文字コード	utf8 (推奨)	utf8mb4 (推奨)
git ブランチ	master	2
.env のメール設定	MAIL_DRIVER	MAIL_MAILER

## 1.2 移行後も引き継がれるもの

- ・ 既存ページ・コンテンツ (DB のデータ)
- ・ ユーザー・パスワード
- ・ アップロードされた画像・ファイル (storage/)
- ・ カスタムテーマ (public/themes/)
- ・ .env の設定値 (DB 設定・メール設定等)

## 1.3 重要な注意事項

- ⚠ 作業前に必ずバックアップを取ってください (DB + connect-cms ディレクトリ)
- ⚠ Xserver のサーバーパネルで Web サーバーの PHP を 8.2 以上に変更する必要があります
- ⚠ SSH の PHP と Web サーバーの PHP は別管理のため両方の変更が必要です
- ⚠ できるだけアクセスが少ない時間帯に作業してください

## 2. 事前準備

---

### 2.1 Xserver の PHP バージョン変更

V2 は PHP 8.1 以上が必須です。Xserver のサーバーパネルから変更してください。

1. サーバーパネルにログイン ([https://www.xserver.ne.jp/login\\_server.php](https://www.xserver.ne.jp/login_server.php))
2. 「PHP Ver.切替」をクリック
3. 対象ドメインを選択
4. PHP 8.2 または PHP 8.3 を選択して「変更する」

### 2.2 バックアップ

作業前に以下の2つをバックアップしてください。

#### DB バックアップ

```
# SSHで接続後に実行  
mysqldump -u XXXX_dbuser -p XXXX_dbname > backup_$(date +%Y%m%d).sql
```

#### connect-cms ディレクトリバックアップ

```
cp -r ~/XXXX.info/connect-cms ~/connect-cms_backup_$(date +%Y%m%d)
```

## 3. 手動での移行方法

---

### STEP 1 : メンテナンスモード ON

```
cd ~/XXXX.info/connect-cms
php artisan down
```

### STEP 2 : V2 ブランチに切り替え

V1→V2 の切り替えには git stash が必要です。

**i** なぜ git stash が必要か :

V1 インストール後に composer install を実行すると、composer.json と composer.lock が git 管理上「ローカル変更あり」の状態になります。

この状態で git checkout 2 を実行すると必ず失敗するため、事前に git stash で変更を退避する必要があります。

```
# git ユーザー設定 (未設定の場合のみ)
git config --global user.email "XXXX@example.com"
git config --global user.name "XXXX"
```

```
# ローカル変更を退避
git stash
```

```
# master ブランチを最新に更新
git checkout master
git pull
```

```
# V2 ブランチ「2」に切り替え
git checkout 2
```

```
# V2 の最新安定版タグに切り替え
git checkout $(git describe --tags --abbrev=0)
```

### STEP 3 : Composer ライブラリ更新

Laravel 8→10 の依存ライブラリを更新します。

```
php -d allow_url_fopen=1 composer.phar install --no-dev --no-interaction
```

### STEP 4 : .env の更新

V2 で変更が必要な設定を更新します。

## MAIL\_DRIVER → MAIL\_MAILER への変更

```
# .envを確認
grep "^MAIL_" .env

# MAIL_DRIVERをMAIL_MAILERに変更（MAIL_DRIVERがある場合のみ）
sed -i 's/^MAIL_DRIVER=/MAIL_MAILER=' .env
```

## SESSION\_SECURE\_COOKIEの有効化（HTTPS環境の場合）

```
# コメントアウトされている場合は有効化
sed -i 's/^#SESSION_SECURE_COOKIE=true/SESSION_SECURE_COOKIE=true/' .env
```

⚠ メール設定（MAIL\_HOST・MAIL\_PORT等）は変更しないでください。  
V1で設定済みの値をそのまま引き継ぎます。  
誤って上書きするとSMTPホストが二重になるなどの問題が発生します。

## STEP 5 : キャッシュクリア

```
php artisan config:clear
php artisan cache:clear
php artisan view:clear
```

## STEP 6 : DBマイグレーション

V1→V2で追加されたテーブル・カラムを作成します。

```
php artisan migrate --force
```

## STEP 7 : Seeder 実行

```
php artisan db:seed --force
```

## STEP 8 : メンテナンスモード OFF

```
php artisan up
```

## STEP 9 : 動作確認

5. ブラウザでサイトにアクセスして表示を確認
6. 管理画面にログインして各機能の動作を確認

7. 管理画面のメール送信テストでメールが送れるか確認

## 4. 自動インストールスクリプト

上記の手動手順をすべて自動化した bash スクリプトを作成しました。

対話形式で必要な情報を入力するだけで、バックアップから V2 への切り替えまで自動で実行されます。

### 4.1 スクリプトの入手

本投稿に以下の3つのスクリプトファイルを添付しています。ダウンロードしてご使用ください。

- upgrade\_to\_v2.sh : V1→V2 バージョンアップスクリプト (メイン)
- backup\_connect cms.sh : バックアップスクリプト
- restore\_connect cms.sh : 復元スクリプト

#### **i** upgrade\_to\_v2.sh について

スクリプト内のサーバー番号 (svXXXX) はご自身の環境に合わせて変更してください。

Xserver のサーバー番号はサーバーパネルの「サーバー情報」→「ホスト名」で確認できます。

例: sv12345.xserver.jp の場合、svXXXX → sv12345 に置き換えてください。

### 4.2 使い方

8. 添付のスクリプトファイルをダウンロードする
9. FileZilla で Xserver のホームディレクトリ (/home/XXXX/) にアップロード
10. SSH で接続してホームディレクトリで実行

```
cd ~
chmod +x upgrade_to_v2.sh
./upgrade_to_v2.sh
```

### 4.3 実行の流れ

ステップ	内容	自動/手動
STEP 0	事前確認 (Web サーバー PHP 変更確認)	確認のみ
STEP 1	インストールディレクトリの指定	入力
STEP 2	PHP バージョン自動選択・切り替え	自動
STEP 3	DB とディレクトリのバックアップ	自動

ステップ	内容	自動/手動
STEP 4	メンテナンスモード ON	自動
STEP 5	git stash + V2 ブランチ切り替え	自動
STEP 6	Composer ライブラリ更新	自動
STEP 7	.env 更新 (MAIL_DRIVER→MAIL_MAILER 等)	自動
STEP 8	キャッシュクリア	自動
STEP 9	DB マイグレーション	自動
STEP 10	Seeder 実行	自動
STEP 11	メンテナンスモード OFF	自動

#### 4.4 人が入力する箇所

スクリプト実行中に人が入力するのはSTEP 0 と 1 のみです。

入力項目	説明	備考
インストール開始確認	y を入力	必須
インストールディレクトリ	V1 の connect-cms のパス	Enter でデフォルト値
アップグレード確認	y を入力	必須

## 5. トラブルシューティング

---

### 5.1 git checkout 2 が失敗する

```
error: Your local changes to the following files would be overwritten by checkout:
composer.json
```

原因：V1 インストール後の composer install で composer.json がローカル変更された状態になっています。

対処：git stash を実行してから再度試してください。

```
git stash
git checkout 2
```

### 5.2 git stash が失敗する

```
fatal: empty ident name (for <XXXX@svXXXX.xserver.jp>) not allowed
```

原因：git のユーザー設定がありません。

対処：以下を実行してから再度試してください。

```
git config --global user.email "XXXX@example.com"
git config --global user.name "XXXX"
```

### 5.3 サイトにアクセスすると PHP エラーが表示される

```
Composer detected issues: Your Composer dependencies require a PHP version >= 8.2.0
```

原因：Web サーバーの PHP バージョンがまだ古いバージョンのままです。

対処：Xserver サーバーパネルの PHP Ver.切替で PHP 8.2 以上に変更してください。

**i** SSH で使う PHP と Web サーバーが使う PHP は別管理です。  
スクリプトは SSH 側の PHP を変更しますが、  
Web サーバー側はサーバーパネルから別途変更が必要です。

### 5.4 メールが届かない・メール設定が二重になる

```
Connection could not be established with host sv12345.xserver.jp:587587
```

原因：.env のメール設定が二重に書き込まれました。

対処：.env を直接編集して正しい値に修正してください。

```
# 現在の設定確認
grep "^MAIL_" ~/XXXX.info/connect-cms/.env

# 編集
vi ~/XXXX.info/connect-cms/.env

# 正しい値の例 (Xserver の場合)
MAIL_MAILER=smtplib
MAIL_HOST=sv12345.xserver.jp
MAIL_PORT=587
MAIL_USERNAME=mail@XXXX.info
MAIL_PASSWORD=XXXXXXXXX
MAIL_ENCRYPTION=tls
MAIL_FROM_ADDRESS=mail@XXXX.info

# 修正後はキャッシュクリア
cd ~/XXXX.info/connect-cms
php artisan config:clear
```

## 5.5 失敗した場合の復元

バックアップから復元する場合は restore\_connect\_cms.sh を使用してください。

### 手動で復元する場合

```
# DB を復元
mysql -u XXXX_dbuser -p -e "DROP DATABASE XXXX_dbname; CREATE DATABASE XXXX_dbname;"
mysql -u XXXX_dbuser -p XXXX_dbname < ~/backup_YYYYMMDD/XXXX_dbname.sql

# ディレクトリを復元
rm -rf ~/XXXX.info/connect-cms
mv ~/backup_YYYYMMDD/connect-cms-backup ~/XXXX.info/connect-cms
```

## 6. メール設定について

---

V2 移行後のメール設定に関する重要な情報をまとめます。

### 6.1 .env の設定値が優先される

Connect-CMS のメール設定には 2 つの保存場所があります。

保存場所	参照タイミング	管理画面表示
.env	常に読まれる（優先）	されない
管理画面（DB）	.env に値がない場合	される

**i** .env にメール設定が入っている場合、管理画面のメール設定が空白でも .env の値でメール送信が行われます。これは正常な動作です。

### 6.2 Xserver でのメール設定値

項目	設定値
MAIL_MAILER	smtp
MAIL_HOST	sv12345.xserver.jp（サーバー番号は環境により異なる）
MAIL_PORT	587
MAIL_USERNAME	mail@XXXX.info（メールアドレス）
MAIL_PASSWORD	メールアカウントのパスワード
MAIL_ENCRYPTION	tls
MAIL_FROM_ADDRESS	mail@XXXX.info（送信元メールアドレス）

## 7. 参考情報

---

- Connect-CMS 公式サイト：<https://connect-cms.jp>
- Connect-CMS フォーラム：<https://connect-cms.jp/forum>
- マニュアル：<https://manual.connect-cms.jp/>
- GitHub：<https://github.com/opensource-workshop/connect-cms>
- GitHub Wiki（アップデート手順）：<https://github.com/opensource-workshop/connect-cms/wiki/Update->（アップデート）

